

令和6年度 新富町立富田小学校 自己評価書

【4段階評価】 4:期待以上 3:ほぼ期待どおり 2:やや期待を下回る 1:改善を要する

◎ 本年度の重点目標 「個別最適な学びと協働的な学びによる学習の深化」「挑戦と自律を促す環境の構築」「基本的生活習慣の徹底」「家庭・地域社会との連携」の取組の重点を軸に「心豊かに知性をみがき、郷土を愛するたくましい子どもの育成」に迫り、子ども、教師、保護者がともに成長する信頼される学校づくりを推進する。

評価項目		評価指標	具体的数値目標	方策・手立て	自己評価				結果の考察・分析及び改善策	学校運営協議員
					児童	保護者	学校	総合		
学力の向上	個別最適な学びと協働的な学びによる学力の向上	個別最適な学びと協働的な学びによる学力の向上	学習の約束が意識化されている学級100%をめざす。	授業準備、1分前着席、立腰の姿勢、聞く・話すときの約束、整理整頓、家庭学習を意識させることで、学習環境の充実を図る。	3.5	2.6	3.3	3.0	【考察】 学習習慣の定着や学習環境の充実について、児童・職員に比べ、保護者の評価が低い。ICT活用および読書活動の推進については昨年度より保護者の評価が高くなっている。 【改善策】 デジタルとアナログの活用の在り方を整理し、学習の約束に基づいた学習の展開に関する啓発を図る。協働的な学習の在り方を、今後も職員研修の中で取り扱っていく。	3.0
			自分の考えをもち、その考えを広げ深めることができる児童80%以上をめざす。	協働的に学ぶ良さを感じ、考えの深め方や高め方、納得解・最善解の導き方のスキルを高めることで、自分の考えを広げ深めながら学ぶことができる児童を育成する。	3.4	3.3	2.8			
		ICTの活用	ICTを効果的に活用する教師80%以上をめざす。	ICTの効果的な活用による協働的な学びの充実、教材作成の効率化による時間の捻出、AIドリルによる習熟の充実を推進することで、学力の向上を図る。	3.4	3.0	3.0			
		読書活動の推進	発達の段階に応じた読書冊数を達成する児童生徒80%以上をめざす。	学校図書室と委員会活動、更に町図書館との連携を図り、読書を促すための具体的取組を行うことで、ベストリーダー賞を目指し図書に親しむ環境づくりを行い、読書活動を推進する。	3.0	3.1	2.8			
		教員育成指標に応じた研修の推進と資質能力の向上	自分に必要な研修を受講し、資質能力を高める教師100%をめざす。	研修履歴を残しながら、自分に必要な学びを積み上げることで、自らの資質能力を向上させ、学び続ける教職員に迫る。			2.7			
生徒指導・特別支援教育の充実	挑戦と自律を促す環境の構築	夢や希望に向かい、挑戦する姿勢や心の育成	自分には「何が必要か」「何ができるのか」を考え、思いを行動に移す児童生徒80%以上をめざす。	「どんな自分になりたいのか」、「何がしたいのか」そのために「どうすればよいのか」の思考サイクルを育むことで、自分の思いや考えを行動に移し、成長を感じながら挑戦していく児童の育成を図る。	3.3	3.2	2.7	3.1	【考察】 本年度設定した「自律」の項目については、児童と保護者・職員の評価に差が見られた。ゴールの姿の共有の在り方を探る必要がある。いじめ防止と不登校の項目については保護者の評価が3.7→3.1と低下した。 【改善策】 「多様性」が叫ばれる中ではあるが、本校の教育目標である「たくましい子どもの育成」のイメージについて、これまで通り組織的支援を行いながら、教師間や保護者との共通理解を図るための啓発を行う。不登校対策については今後も諸機関との連携を継続する。	3.0
		自律を促す環境の構築	自分で考えて行動できる児童80%以上をめざす。	ゴールの姿を共有し、ゴールに向かう方法を考え、必要な資源を活用する経験を積ませることで、自分たちの力で学校の教育活動に参画していく楽しさと面白さを実感する児童の育成を図る。	3.1	2.8	2.7			
		人権教育の充実	人権を尊重する児童100%をめざす。	違いを認め合うという価値観を育てることで、多様性を尊重し、守り守られる人間関係の構築を図る。	3.4	3.2	3.0			
		特別支援教育の充実	特別支援学級、通級指導教室、通常の学級で、自立と社会参加の力を高める児童90%以上をめざす。	個の特性を理解し、よりよい行動形成や思考及び学習の仕方を習得させることで、その効果を実感し自立と社会参加をめざす教育の推進を図る。	3.5	3.4	2.9			
		いじめ防止と不登校への組織的対応	いじめの認知と解決に向けた対応及び不登校児童への組織的支援100%をめざす。	いじめや問題行動並びに不登校児童に関する情報をSC、SSW、SS等を含めた職員で共有することで、支援や相談体制の強化を図るとともに、解決に向けた組織的支援を行う。	3.5	3.1	3.3			
健康・安全教育の充実	徹底基本的な生活習慣の	危険から身を守る教育と命を大切に教育	危険を予知する能力や回避する能力を高める児童80%以上をめざす。	「～をしたらどうなるか」という問いかけを繰り返すことで、次の場面をイメージする力を高め、危険から身を守る力の育成を図る。	3.5	2.9	3.1	3.1	【考察】 「情報モラルと生活習慣」「健康教育の推進」の項目について児童と保護者・職員の評価に大きな差が見られた。子どもだけでなく、社会全体の問題であり、今後も継続するものと思われる。また、働き方改革についても課題が多いと感じている職員も多い。 【改善策】 集会や校内放送、学級指導を今後も継続する。参観日で全校懇談のテーマとして扱う方法を探ったり、家庭教育学級においてこれらのテーマを扱ったりしていく。	3.0
		情報モラルの徹底と規則正しい生活習慣の維持・確立	メディアとの付き合い方について考え、行動できる児童80%以上をめざす。	情報モラルに関する内容を情報タイムで学びリテラシーを育成すると同時に、保護者への啓発活動を行うことで規則正しい生活習慣の確立を図る。	3.7	2.7	2.9			
		健康教育の推進	自己の健康状態を知り、行動する児童80%以上をめざす。	食育をはじめ、各種検診結果、心の安定、ゲーム依存等健康を維持するために必要なことを考える機会を設定することで、健康に対する意識の向上を図る。	3.5	2.9	2.9			
		時間管理と健康管理ができる職員の育成	働き方改革と働きがい改革が進んでいると感じる教職員80%以上をめざす。	ICTの効果的活用による時間捻出や円滑な人間関係と組織体制による働きやすい職場環境の構築を図る。			2.9			
家庭・地域社会との連携	づくり信頼される学校	学校運営協議会との連携	学校運営協議会と連携した活動を行う。	学校運営協議会と連携した活動を模索することで、学校と地域の協働体制を構築する。			2.8 ★2.0	2.4	【考察】 教育活動の発信について、本年度は「家庭で学校生活について話しているか」という質問で児童の意識を調査した。多くの文書をPDFデータで送っていることもあり、学校からの配付物に目を通していないご家庭も多いのではないかと考えられる。 【改善策】 配付文書の概要をメール本文に載せて関心を高める。	2.5
		ふるさと学習の充実	地域素材や地域人材を活用したふるさと学習の実施100%をめざす。	学校運営協議会や地域学校協働本部を活用し、地域素材や地域人材の協力を得ることで、ふるさと学習の充実し、地域に愛着をもつ児童の育成を図る。	3.2	3.0	2.8	3.1		
		教育活動の発信	月1回の通信や定期的なホームページ更新の実施100%をめざす。	学校通信の地域への配付やホームページ掲載を行うことで教育活動を広く外部に発信し、学校教育への関心を高める。	3.5	2.8	3.0			

★は学校運営協議員による評価